

爽やかな青空のもと
大阪本部 春之例大祭 厳粛・盛大に挙行
—まん延防止等重点措置を受け、神輿巡行は割愛—



重厚、快活に舞楽「納曾利」が奉納された。

春風に「日の丸」が高々り行われました。となびく寶生教大阪本部。正に春うららの陽気溢れる四月十一日の佳き日。春之神恩感謝例大祭が厳粛に執



発行所
寶生教大阪本部
大阪府西區北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

5月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より

筆頭に支部ご家族、教信徒の皆様、そして全国各地よりご参集の本部教信徒の皆様をお出迎え。この週の初めに大阪府に適用された「まん延防止等重点措置」を受け、恒例のほりえ神輿巡行、稚児行列、餅まき神事は惜しくも割愛と相成りました。コロナ禍の中、教信徒一人ひとりが大神様のご守護のもと、それぞれが出来る対策を十分に施し、定刻の十時に開式。御神前には、種々の御饌物がうずたかく供えられ、春の花も麗しく差し飾られました。

大祭次第に従い祭典は進み、祭主祝詞では国家安泰、皇室安寧、更なる神威高揚、教勢拡充、又コロナ禍の一日も早い終息と、本部教会のお膝元・堀江地域の健全発展、教信徒皆様の安心立命な生活を祈願下さいました。続いて舞楽「納曾利」奉納。舞人は権現家・倭子様

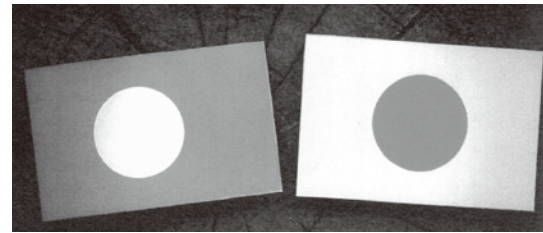
無事に滞り無く大祭奉仕が出来ましたのは、大神様の御神威に由ることは申し上げるまでも無く、教信徒皆様の篤い信仰の賜物であると確信致します。大祭斎行にあたり数日來諸準備、ご奉仕を頂きました総代始め各役員、有志の皆様、又心尽くしの福当たり賞品をお供え頂きました皆様に御礼申し上げます。



「疫病退散」「幸先詣」の幟が立ち並び、御神輿も、参拝者を迎えます。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動



日本国旗は白地に赤(右)、パラオ国旗は青地に黄(左)パラオ国旗の黄丸は少し中心からずらしてある。



日本・パラオ友好の橋(KBブリッジ)もある。パラオ共和国は親日的な国である。

本日は教祖祭。更に今月は御教祖のご誕生日でございます。明治元年四月二十一日、現在御本宮のある、山梨県内船の地に御教祖はお生まれになりました。現代の様に、ものの豊かな時代、恵まれた時代では無かったでしょうし、ご苦労もおありだったであろうと拝察致します。しかしながら御教祖は大變向学心が強く、十七歳の頃、京都の花本十一世不識庵先生のもとで和歌をとおして勉強されます。京都へ行くといままで、も、当時、村にはまだ自動車も通っておりません。まず富士川を帆掛け舟で下るといふ、今でいうなら海外留学にでも行く様な感覚だったのだそうです。内船に帰られた御教祖は「今に水が火になるぞ」と村人たちに話されます。村人たちは驚いて「京都へ行って頭がおかしくなったのでは」と噂されたのだそうです。実はその頃京都では、琵琶湖疎水の建設と並行して、日本初の水力発電事業が進められているのを見聞されたのです。後、水力発電所が操業、その電力で街灯が灯されるのを見て、村人たちもなるほどと納得されたのだそうです。もう一つ、御教祖が京都から持ち帰られたものに、道路の普請があります。碁盤の目の様に整備された京都の町並みに比べて、内船の村の道は曲がりくねっており、また「村を發展させるには、まず道路を整備すべきだ」と、私財を投げ打って村中に直線の通りをいくつも作られたのだそうです。扱、四月は「卯月」と申します。卯月などの名称は元々旧暦に付けられた異称です。旧暦の四月は、「卯の花が咲く頃」ですので卯月と呼ばれるのだそうです。又ウノハナの植物名を「ウツギ」といい、その花が満開になる季節であることから「卯月」と名付けられたともいわれています。因みに、おからのことを卯の花と呼ぶのは、このウツギの花である卯の花の、白い小花が咲いている姿と似ているからだそうです。話は変わりますが、日本

の公用語は何語か、皆さんご存知でしょうか。「勿論、日本語だ」と、誰もが思われるかも知れませんが、実は、日本では公用語が法律等で正式に定められていないのです。あくまで昔からの慣習で、私達の会話や公式な文章には日本語が使用され、義務教育でも国語として日本語を学んでいるのです。そして何と、日本以外の国で日本語を公用語と定めている国があります。それはパラオという国です。

日本から南へ約三千キロに位置するパラオ共和国は、第一次世界大戦以降、日本の統治下にありました。その際、教育、医療、インフラ整備を全て日本政府が賄い、パラオは大変感謝し、現在も一部の州で日本語が公用語として使用されているのです。しかし、先程申し上げた様に、日本では日本語が公用語として定められており

ません。にも関わらず、長い歴史の中で日本人に愛され続けてきた日本語。又明治天皇が多く詠まれた、御教祖も親しまれた和歌も、日本語の美しさを表現する文化の一つです。そういった伝統、文化を大切に守り続ける姿もまた日本人の心の美しさであり、日本人のつとめではないかと存じます。

教会行事

五月 一日(土)	月並祭	午後七時
二日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
八日(土)	御本宮遙拝式	午前九時
九日(日)	修行日	午前十一時、午後七時
十二日(水)	教祖祭	午前十時
十五日(土)	愛教婦人会総会	正午
二十日(水)	宝生会(信楽CC)	午後七時
二十二日(土)	月並祭	午後七時
二十三日(日)	養老教会修行日	
二十五日(火)	西播教会修行日	
二八日(金)	修行日	午前十一時、午後七時
三十日(日)	西部・大正、東部・南部、北部、南海地区敬和会	
一日(火)	名古屋地区敬和会	午後七時
四日(金)	月並祭	
五日(土)	城北地区敬和会	
六日(日)	福島、南大阪、阪神	
六日(日)	御本宮月並祭	午前十一時半
六日(日)	御本宮遙拝式	午前九時
八日(火)	修行日	午前十一時、午後七時
九日(水)	修行日	午前十一時
九日(水)	教祖祭	午後七時

祭之大教 死を無駄に恐れるな。



大祭ご教話なさる祭主・本部長様

教信徒の皆様、本日は大阪本部春之例大祭によるご参拝下さいました。西播、養老、各教会長様を筆頭にご家族、役員、教信徒の皆様、又東は関東、東海、西は米子より、更に大阪近郊、市内各地域の本部教信徒の皆様、それぞれに誠心込めてのご参拝、誠に御座います。

只今は、我々寶生教を信仰する者に取りまして大切な春之例大祭が無事斎行されましたこと、先ずは共々にお祝い申し上げたいと存じます。

しかし、世間はコロナ禍中々収まらず、大阪府下に於きましても「まん延防止」の措置がとられており、残念ではありますが「ほりえ神輿巡行」「しあわせのお稚児さん行列」「餅まき行事」は実施を見送らせて頂きました。

依然として日本に於いては、世の中が得も言われぬ新型コロナウイルスの恐怖に包まれています。ようやくワクチンが用意されても、肝心の特効薬が未だ無い事が理由として大きく取り上げられるのです。感じます。

【神と見えない世界】(※)と云う書籍の中に書かれていたのですが、京都大学大学院教授カール・ベッカー氏の研究によると、「今の日本人は、死をもっとも恐れている民族のひとつ」なのだそう。

しかし同氏によると、五十年前の日本人はそうでは無く、死を自然なものとして受け入れていたのに、現代の日本人は、死を異常なまでに恐れているといふのです。

確かに、このコロナ禍での報道などを見ておられますと、重篤者病床の確保の為に、他の全ての事象を後回しにして構わないと云う様な印象を受けてしまいます。

この世の生命あるもの全てに、確実に定められた未来が一つだけあります。皆様、お解りになるでしょうか。

それは、誰もが等しく、死を迎えることと云うことです。私達寶生教の教えの一つに「自家成立繁栄」というものがあります。

単純に理解すれば「自分の達の氏名の繁栄を目指す」と云う意味なのですが、その簡単な意味だけでは無い様に思います。

先程申し上げた様に、私達生命ある者は、必ず何れ死を迎えます。その死を無駄に恐れず、それぞれの生命ある時間をどの様に生きて、与えられた氏名を如何にして発展させるか。

そして、人として美しく老いていく姿を次の世代に示せるか云う事を、御教

養老教会長様の「幸先語」と申します。

新しい環境でそれぞれが大神様、御祖先様の「守護、良いご縁を頂かれ、人生が心豊かになる事を祈願致します。詳しくは事務所に案内を用意しておりますので、是非ご覧下さい。

本日ご参拝の皆様それぞれが迎えられた新年度。巷の厳しさに流されぬ様、大神様、御祖先様の大きいなるご守護を頂かれ、実り多き年度になります様、又ご家族皆様健康で、氏名の発展に寄与されます様祈念申し上げます。

最後にになりましたが、本日ご参拝の皆様それぞれが迎えられた新年度。巷の厳しさに流されぬ様、大神様、御祖先様の大きいなるご守護を頂かれ、実り多き年度になります様、又ご家族皆様健康で、氏名の発展に寄与されます様祈念申し上げます。

又祭員、雅楽部の皆様のご奉仕に心より感謝を致し、殊に、祭典中奉納致しました舞楽は「納曾利」と申しまして、舞人は新宅の倭子さんと内池先生です。舞、奏楽共にきれ良く演奏頂きました。

更に、直会福当たりの賞品をお供え頂きました有志の皆様、心より御礼申し上げます。

※矢作直樹氏 共著 村上和雄氏

養老教会長様の「幸先語」と申します。

新しい環境でそれぞれが大神様、御祖先様の「守護、良いご縁を頂かれ、人生が心豊かになる事を祈願致します。詳しくは事務所に案内を用意しておりますので、是非ご覧下さい。

本日ご参拝の皆様それぞれが迎えられた新年度。巷の厳しさに流されぬ様、大神様、御祖先様の大きいなるご守護を頂かれ、実り多き年度になります様、又ご家族皆様健康で、氏名の発展に寄与されます様祈念申し上げます。

最後にになりましたが、本日ご参拝の皆様それぞれが迎えられた新年度。巷の厳しさに流されぬ様、大神様、御祖先様の大きいなるご守護を頂かれ、実り多き年度になります様、又ご家族皆様健康で、氏名の発展に寄与されます様祈念申し上げます。

又祭員、雅楽部の皆様のご奉仕に心より感謝を致し、殊に、祭典中奉納致しました舞楽は「納曾利」と申しまして、舞人は新宅の倭子さんと内池先生です。舞、奏楽共にきれ良く演奏頂きました。

更に、直会福当たりの賞品をお供え頂きました有志の皆様、心より御礼申し上げます。

御本宮 月並祭 毎月第一日曜日 午前十一時半より

話「御神言」は有難い偉大な祝詞

「寶生教」の名が大きく地方新聞に掲載

祭 並 月 (4月1日)

本日はお陰話を二つご披露させて頂きます。先ずは、二月十七日教会本殿において、日頃謡曲のご指導を賜る上野先生による新作能「アマビエ」の奉納式を執り行いました。

その際、縁あって大阪日日新聞の記者が取材に來られ、翌日の紙面で取り上げ下さりました。

その記者は米子出身の方で、教会にも米子の信徒さんが居られることから、話が弾みました。

色々とお話をしておりました、保守的な考え方をもち、神道的なものの方にもなじんで居られる方でした。

そこで、以前皆様にもお話ししました「鬼滅の刃」から垣間見える「日本人らしさ」というお話をしましたら、大変興味をお持ち下さり、取材して頂きました。

小さい枠で取り上げてもらえるものだと思っておりましたが、三月二十二日の紙面で大きく掲載されました。

大阪日日新聞は地方紙ではありますが、公的なメディア

あり、日頃説く神道精神、日本人らしさを世間の目に触れて頂く事が出来たのは大変有り難い事です。

大神様、御祖先のお運びくださった尊いご縁に、深く感謝しております。

もう一つのお陰話は先月、車で西播教会に出張へ参り、教会へ帰って来た夜、クレジットカードなんかも入った小銭入れが見当たらないのでした。

何処かで落とされたかなとも思いましたが、最後車に乗った時は確かに持っている記憶がありました。

ですから車の中をよく探しましたが、何度探しても見当たりません。

家内は聞いてみますと、「そういう時は、心を落ち着けて、神様によくお参りしてみたらどうか」といつてくれましたので、二人で神様に向かって御神言を唱えました。

その瞬間、家内が「ここにあるよ」と、何度探しても見つけないことの出来なかつた小銭入れを手にとって

たことや思い悩むことがあるかと思ひます。

その様な時はどうぞ心を落ち着けて、御神言を心から唱え、祈られますと、不思議な作用を与えてくださる祝詞でございます。

この御神言は、大正七年に御教祖が前の二行をまずお定めになり、戦後間もなくは後の二行を御神言とされておりました。

後に故真道大権現職様が四行を御神言として定められ、現在に至っております。

「おしえのしおり」に御神言の文字を一字一字頭に

いただいて、教えの話のみちしるべとしてつづられております。

以前、前の二行まではお話ししましたので、今日は戦後つくられた後の二行をご紹介します。

三行目の「仁義礼智忠信孝悌」は、社会奉仕の祈りです。

仁：仁は他人のためならず、子孫繁栄、社会融和の基と知れ。

義：義理人情あつて、この世は成り立つもの。道理恩義を忘れるな。

礼：礼は心の現れで、つつしみ深きは美しく、行い浅きは軽薄傲慢に見ゆ。

智：知恵はつぎることなし。学び修めて、世のため人のために用立てよ。

忠：忠は真心をつくすことにして、健康で国家社会に御奉仕を。

信：信じ合うは安心立命の基、不信は短命没落の淵と知れ。

孝：孝は百行の基、親長上をたいせつに、不安な心を持たせぬよう。

悌：悌は兄弟姉妹仲睦じくの意なり。長幼の序わかまえて。

四行目の「陰陽博愛情感頓心」は、家庭和合の祈りです。

陰：陰は婦徳、婦道に通じ、子女育成のたいせつな務めあり。

陽：陽気暮らしが自家成立繁栄の根元、家長を心に笑顔で暮せ。

博：博き心は信仰で養うべし。感謝があつてすべてが育つ。

愛：愛は捧げて悔いなきものでなければならぬ。真の愛には敵はない。

情：情は過ぎれば禍となり、足らぬは不仲のもととなる。勇気節度が最も肝要。

感：感じやすきは人の常。悪口かげ口慎んで、明るい友をつくるよう。

頓：頓智頓才は現世生活の必須条件。分に応じた勉強をせよ。

心：心は己が生命のたいせつな蔵。ちりあつたを取り除き、信仰で稼いだ徳を蓄えよ。

又「信仰生活心得」の一つめにも、

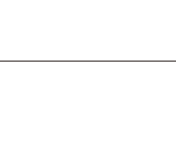
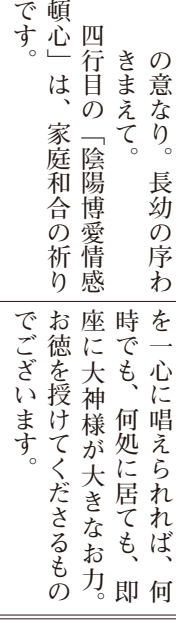
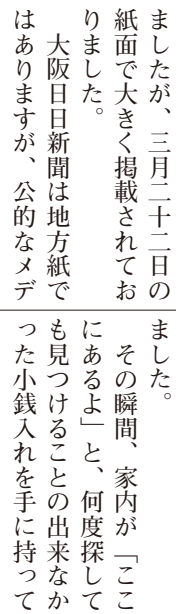
「常に御神言を唱え、おみちにはずれるようなことはいたしません。」とあります。

どうぞこの尊い「御神言」を一心に唱えられれば、何時でも、何処に居ても、即座に大神様が大きなお力をお徳を授けてくださるものがございます。

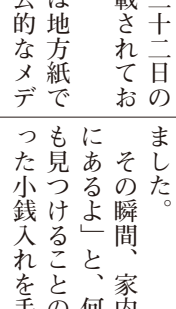
3月22日の「大阪日日新聞」19ページに大きく大阪本部長様が掲載されました。

山本 見道さん

「鬼滅」現象講話で古き良き日本への渴望



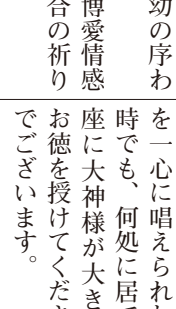
西播教会長様による奉幣行事



養老教会長様の「幸先語」と申します。



「幸先語」と申します。



「幸先語」と申します。